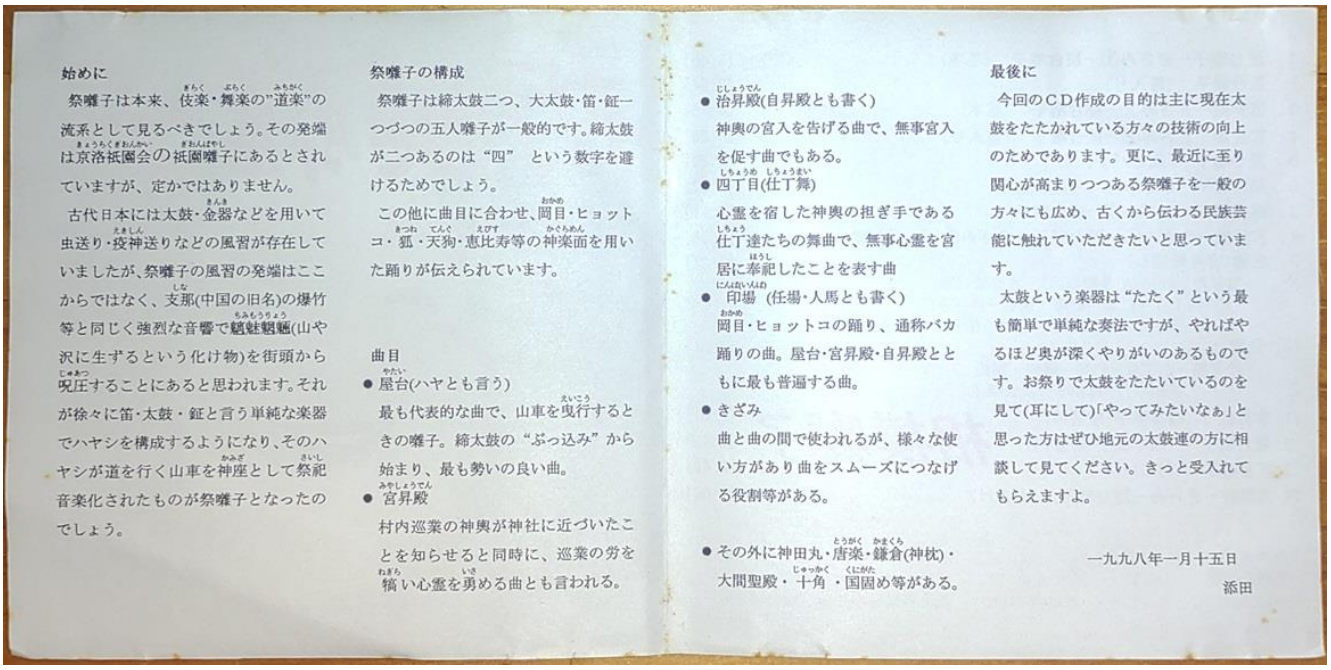

始めに

祭囃子は本来、伎楽・舞楽の"道楽"の流系として見るべきでしょう。その発端は京洛祇園会の祇園囃子にあるとされていますが、定かではありません。

古代日本には太鼓・金器などを用いて虫送り・疫神送りなどの風習が存在していましたが、祭囃子の風習の発端はここからではなく、支那(中国の旧名)の爆竹等と同じく強烈な音響で魑魅魍魎(山や沢に生ずるという化け物)を街頭から呪圧することにあると思われます。それが徐々に笛・太鼓・鉦と言う単純な楽器でハヤシを構成するようになり、そのハヤシが道を行く山車を神座として祭祀音楽化されたものが祭囃子となったのでしょう。

祭囃子の構成

祭囃子は締太鼓二つ、大太鼓・笛・鉦一つづつの五人囃子が一般的です。締太鼓が二つあるのは"四"という数字を避けるためでしょう。

この他に曲目に合わせ、岡目・ヒョットコ・狐・天狗・恵比寿等の神楽面を用いた踊りが伝えられています。

曲目

- 屋台(ハヤとも言う)
  最も代表的な曲で、山車を曳行するときの囃子。締太鼓の"ぶっ込み"から始まり、最も勢いの良い曲。
- 宮昇殿
  村内巡業の神輿が神社に近づいたことを知らせると同時に、巡業の労を犒い心霊を勇める曲とも言われる。
- 治昇殿(自昇殿とも書く)
  神輿の宮入を告げる曲で、無事宮入を促す曲でもある。
- 四丁目(仕丁舞)
  心霊を宿した神輿の担ぎ手である仕丁達たちの舞曲で、無事心霊を宮居に奉祀したことを表す曲
- 印場(任場・人馬とも書く)
  岡目・ヒョットコの踊り、通称バカ踊りの曲。屋台・宮昇殿・自昇殿とともに最も普遍する曲。
- きざみ
  曲と曲の間で使われるが、様々な使い方があり曲をスムーズにつなげる役割等がある。
- その外に神田丸・唐楽・鎌倉(神枕)・大間聖殿・十角・国固め等がある。

最後に

今回のCD作成の目的は主に現在太鼓をたたかれている方々の技術の向上のためであります。更に、最近に至り関心が高まりつつある祭囃子を一般の方々にも広め、古くから伝わる民族芸能に触れていただきたいと思っています。

太鼓という楽器は"たたく"という最も簡単で単純な奏法ですが、やればやるほど奥が深くやりがいのあるものです。お祭りで太鼓をたたいているのを見て(耳にして)「やってみたいなぁ」と思った方はぜひ地元の太鼓連の方に相談して見てください。きっと受入れてもらえますよ。

一九九八年一月十五日

添田

※宮昇殿・屋台の太鼓・笛の譜面付き